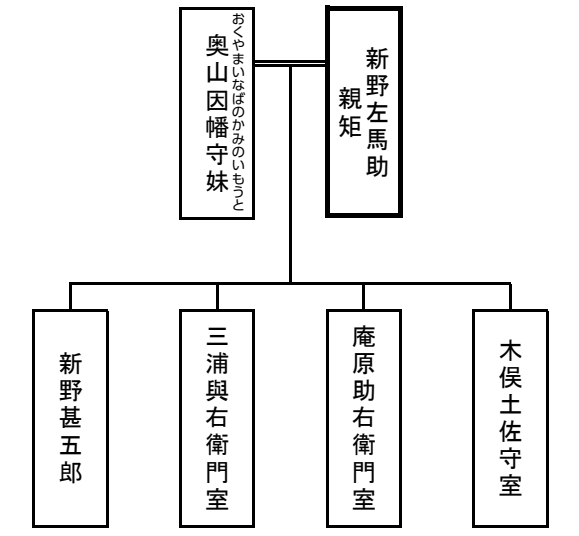


新野家家系図の一部



History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

新野左馬助親矩公の娘たち

大河ドラマ「おんな城主 直虎」では、新野左馬助親矩公が亡くなった後、娘のあやめ役として光浦靖子さんが登場し、虎松(後の直政)の面倒をみる役どころで、どんな活躍をするか楽しみである。

さて、井伊直政は、後に命の恩人である左馬助に報いるため、左馬助の娘たちを重臣に婚礼させている。『井伊家伝記』には、娘を3人として、「第一の息女を木俣土佐守へ、第二の息女を庵原助右衛門へ、第三の息女を三浦与右衛門に縁組仰せ付けられた」とある。

木俣土佐守家は彦根藩筆頭家老を務める家。庵原家は、彦根藩次席家老の家であり、三浦家もまた家老役の家である。

左馬助の血脈と精神は、娘たちとその娘婿(木俣、庵原、三浦)たちに受け継がれた。娘婿たちの家には、井伊家最大の危機を救った左馬助の血が流れ、また、自分たちが彦根藩を盛り立てているという誇りが、後々まで左馬助の忠節を歴代語り伝えていく背景にあったのでは、と想像される。

最近、木俣家に関わる『守安公書記・雑秘説写記』と題する新資料の発表があった。寛永17年(1640年)に、左馬助の第一息女の息子・木俣守安が新野家のおば達から聞き書きした内容を、享保20年(1735年)に子孫の木俣守貞が書き写したものという。資料の真偽はともかく、新野家に関する資料が今後も出てくることを期待したい。

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0548⑧1129

Atomic

暮らしと原子力

実効性のある

原子力災害広域避難計画に

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故以降、浜岡原子力発電所周辺における防災対策の見直しが必要になりました。御前崎市及び周辺市(牧之原市・掛川市・菊川市)では、原子力事故と地震・津波災害との複合災害を想定した原子力災害広域避難計画の策定を進めています。実効性のある広域避難計画にするためには、東名高速道路や新東名高速道路へつながる幹線道路網の整備や、河川や海岸からの浸水対策として、水門の新設や堤防のかさ上げをする必要があります。また、安定ヨウ素剤の事前配布などの課題も残されています。



浜岡原子力発電所安全対策協議会では、これらの課題を解決し、当地域の住民が安全で安心して暮らせるまちにすることを、静岡県知事に要望書を提出しました。

要望に対し県知事は、「道路は一朝一夕には整備できないが、地域住民が安心できるように、なるべく早く広域避難計画を作る必要がある。広域避難計画を実行性のある形にするとともに、誰もが納得する形で安定ヨウ素剤の配布も実施していく」と話しました。

○要望事項

- 1、原子力災害時の避難経路となる主要な道路等の整備
- 2、安定ヨウ素剤の事前配布